

始しました。

子ども達はみんな魚を計量する仕事をしていたのですが、やはりここでも緊張と不安があるのか、お客さんが来ても愛想のない接客となってしまいました。しかしこれも慣れです、だんだんと客数が増えてくると、客呼び込みをする子ども、お金を計算する子ども、魚をさばく子どもなど分担して作業を行えるようになってきました。午前8時ごろに忙しさのピークになり、真夏のフリピンの日差しがとて強くなってきました。またさばく魚の生臭さにより、大量のハエが飛び交い、本当に大変な状況でしたが、



JFC達は疲れた表情も見せず、真剣なまなざしで販売しており、時には客に活動をほめられ、笑顔を見せていました。休憩中は、子ども達が母親達に魚のさばき方を教わったり、子ども達同士での教ええあったりも垣間見えました。後半は子ども達にも疲れが見え始めましたが、疲れたかと尋ねても、全然大丈夫！と元気いっぱいに答えました。この元気の源は、頑張る母親達や仲間達の姿を見ながら活動したからだだと思います。また、同じ境遇である仲間同士一緒に活動することが良い経験と感じたり、自分達のために働く母親達の姿に感謝の気持ちを持ったりと学びが多かったと思います。そして、働くことの大変さを体験し、病気で苦しむクリスティンさんの辛さを精神的な面で共有することができたのではないのでしょうか。

子ども達からのコメント

コウタくん：今日は魚の売り方と、他の人の助け方を学べて良かったです。マリガヤハウスのJFC奨学生みんなが他人の助け方や魚の売り方を学べてから素晴らしかった。ムサシのお母さんは子ども達のために一生懸命働いていて本当に凄いなと思いました。

ムサシくん：自分と同じような父親に見捨てられたJFC達と一緒に働く経験が出来て良かったです。この活動でクリスティンさんを助けることができ、いい活動だと思いました。自分の母親が働く姿を見ることができて良かったです。

マキコさん：疲れたけどとても楽しくできて良かったです。いつもお世話になっているクリスティンさん

を助けるために一生懸命働くことができました。ムサシのお母さんはとても一生懸命働いていました。ムサシくんとユカリさんの食べ物を買うために、彼女は睡眠を削っていたけれど、働き続けなければいけないのかと少し悲しく感じました。

ユカリさん：この活動をするのはとても良かったですし、お母さんの役に立てたと思います。魚の売り方を学ぶことと人を助けることを同時に行えたことが良かったです。今日はいつも苦勞をしているお母さんを助けられたので良かったです。

